

まち

No.13 2019 年 秋号

発行日：令和元年 10 月 23 日
発行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎ 03-3259-0531 (学科事務室)
発行責任者：岡田智秀 (教室主任)
編集担当：小木曾 裕、西山孝樹
制作：株式会社 ムーンドッグ

contents

巻頭言	1
特集 まちづくり工学科 2 期生の「職場での活躍」	2
学部 3 年生・修士 1 年生へ「就職活動へ向けて」	11
平成 31 年度前期「まち」行事・イベントカレンダー	12
新任教員紹介	15
教職員・学生の活躍	16

巻頭言

あなた自身の“Want & Must & Can”を考える

教授 田中 賢



まちづくり工学科から卒業生を輩出して 3 年がたち、本特集にみるように卒業生は各分野で期待通りの頑張りを見せている。皆さん「仕事は大変だ!」と口を揃えて言うが、「嫌だ!」という声はほとんど聞かない。「大変≠嫌」である。大変だけれども楽しいようだ。仕事を遊びのように楽しめるようになると社会人としては本物だ!とても心強い。

何と言っても、皆さんの部署長の多くが私と同世代であり「24時間戦えますか?」時代の最後の「企業戦士」の生き残りである。ブラック企業どころか社会全体が真っ黒な時代に若手だったので、働き方改革が言われる現在でも、何処か腹の底では自分が若かりし頃の企業戦士を求めているのではないか。

エネルギーな卒業生と話をしていたら、「私が企業勤めの頃にこの子たちが部下だったら、どういう評価をしていたらうか?」と意地悪な思いに駆られてしまった。そこで私が人事評価をしていた頃の話をしたい。

大学では課題や試験などを通して皆さんの成績評価を行うが、企業でも成績評価はある。上司が部下の仕事ぶりや成果をみて職階を上げたり、給料やボーナスを上げたりする。

私はその成績評価の際に、部下と個別面接を行い、仕事内容や成果をプレゼンしてもらう。仕事ぶりを「見える化」す

るためにホワイトボードにベン図を描いてもらうこともある。「Want: あなたはこの部署で何がしたいのか?」「Must: あなたはこの部署で何をしなくてはいけないのか?」「Can: あなたはこの部署で何ができるのか?」を考え、自身の手でベン図を描いてもらう。例を下図に示す。

きれいに 3 つの円が重なれば、この部署で楽しく実力を発揮していることになる。幸せな社会人生活である。3 つの円が離れているなら、残念ながらお互いが相思相愛ではなかったことがわかる。その際には、部署移動も含めて相談する。

このベン図は就活にも活かせる。

Want: あなたは社会に出て何がしたいのか?

Must: あなた自身が志望する企業はどのような人材を求めているのか? その企業はどのような仕事をしているのか?

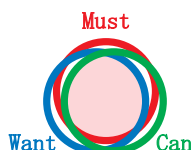
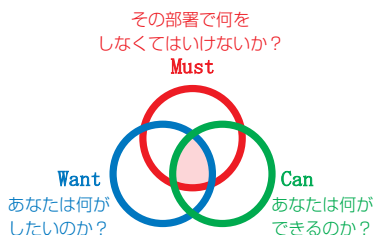
Can: あなたは学生時代に何を学び、どのような能力・資格を持っているのか? その企業で必要な能力を有しているのか?

冷静に自分自身の希望・能力と企業の求める人物像・能力を分析してほしい。自分の能力が足りなければ今からでも遅くないので、補う努力をするべきである。

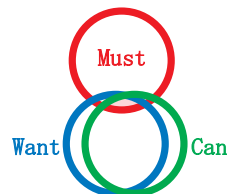
敵を知り己を知れば百戦危うからず、である。

例えば、自治体の建設部で働くことを目指していても、橋梁の構造計算のチェックができなければ仕事もおぼつかない。

自治体から求められる人材になるためには、強い思いだけでなく、3 力 (構造力学・土質力学・水理学) を修める必要がある。



やりたいこと・できること・就職先が求めていることがすべて一致していれば、幸せな社会人生活が送れる。



やりたいこと・できることは一致しても、就活先の求める人材ではない。就活先を見誤っている。

まちづくり工学科2期生の

職場での活躍

まち科2期生に聞きました。

1

どんなお仕事を
していますか？

2

お仕事での目標は
なんですか？

3

学生時代に
打ち込んだことは？

4

後輩に就活への
アドバイスを！

まちづくり工学科の2期生が卒業し就職してから1年半がたちました。2期生の就職・進学の実定率は99.2%で、3期生は99.1%と推移しています。

2020年3月に卒業予定の4期生は現在、すでに内々定が出た学生、まだ就職活動中の学生とさまざまですが、みな将来に向けて頑張っています。また3年生は夏にインターシップを経験し、秋から冬にかけて徐々に就職活動モードになってきました。

まちづくり工学科は創設7年目の新しい学科ですが、卒業生はどのようなところに就職し活躍しているか、在学生にとってはとても大切なことです。またオープンキャンパスなどでも卒業生

の就職先についてはよく尋ねられ、高校生にとっても重大な関心事項です。

『まち』2018年秋号（No.11）では、まちづくり工学科1期生の職場での活躍を特集しましたが、とても好評でした。そこで今号は昨年に続く「第2弾」として、まちづくり工学科の特徴である幅広い就職先で活躍されている2期生を紹介します。職場での様子を在学生に知ってもらうことで、就職への貴重な手がかりにしようとともに、これから入学される高校生などにも知ってもらおうと思います。皆さま、2期生の職場での奮闘や、学生時代に力を入れたことなどをご一読いただければと思います。



・卒業生の顔写真等は、在学中のものです（『2017年度まちづくり工学科卒業アルバム』より） ・（ ）内の研究室名は、卒業当時のものです。

高橋 佑奈

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 関東支社 都市政策・デザイン部

卒論テーマ ハザードマップ利活用の現状把握―千葉県における浸水想定区域と公共建築物の立地状況に着目して― (仲村研究室)

好きな「まち」
みなとみらい

出身高校
日本大学習志野
高等学校



1

私の所属するチームでは、「複合施設、面開発事業」「交通拠点施設等の計画及び設計」「面整備における造成計画及び設計」を主として実施しています。その中で私は去年1年間で、公園設計、公園長寿命化計画策定、駅前広場の設計という、三業務に携わりました。また、仕事とは離れますが、若手中心のデザイン勉強会や街路、公園、駅前広場等の整備事例の見学会もあり、設計業務を進めるにあたり必要となるスキルを勉強しています。

2

都市計画の分野は幅広く、「計画系」と「設計系」の2種類でも共通な部分はありますが、必要となる知識は大きく異なります。すべての知

識を習得するのは時間や現実的に難しい部分があるので、私の仕事におけるこれからの抱負としては「自分の興味のある業務に関する知識・技術を、自分の強みにすること」です。資格取得のように自己学習として知識を習得する方法もありますが、業務を進めながら知識を習得できる今の環境を存分に活かして頑張りたいと思います。

3

学生時代はバドミントンサークルに所属していました。大会出場や、合宿、学祭などイベントの多い楽しいサークルでした。サークルには他の学科の学生や、先に就職活動を経験している先輩方もたくさんいるので、情報源でもありました。サークルのメンバーとは、卒業した現在でもOB・OGとしてサークルのイベ

ントに参加したり、定時後に集まって会社の話をしたり、一緒にバドミントンをしたりしています。

4

就職活動をするにあたり、私が一番大事だと感じたことは、早めに動くことです。業界研究・企業研究を含めて、私は2月から同業の数社へOB訪問に行きました。たとえ合わないと感じても、自分にとってマイナスになることはないので、積極的に動くことをお勧めします。また、資格については、あくまで+αの要素だと思います。持っているに越したことはないと思いますが、持っていないからといって興味のある業界を諦めないでください。後悔のない就職活動になるよう、楽しみながら頑張ってください。



デザイン勉強会の様子



大会（日大リーグ）への参加

神尾 奨太

鹿島建設株式会社 関西支店 オムロン桂川工事事務所

卒論テーマ 畜産系バイオガスプラント導入に伴う地域への波及状況とその効果に関する研究(岡田研究室)

出身高校

埼玉県立
川口高等学校

好きな「まち」
京都
(いま住んでいます)



上棟梁との記念写真

1

私は地上7階S造の建設現場で現場監督(施工管理)をしています。安全・品質・コスト・工程・環境のそれぞれを管理する立場にあります。朝が早くて夜が遅い仕事ではありますが、先輩社員や職人さんと意見を交わしながら進めていく働き方がすごく好きで、楽しく感じています。建設現場には鳶・大工・鉄筋など何十もの職種があり、それぞれが次の職種へとつなげながら工事を進めていきます。その中で施工順序の調整を行ったり、細かい納まりを検討して現場に反映したり、安全な作業環境を整えたりと、日々変わっていく現場の姿に遅れないよう、常に先を見て働いています。

2

目標の1つ目は「知識の習得」で

す。具体的には、「一級建築士」の資格を取得することです。管理する側に知識が無いと、管理しようがありません。お施主さんや職人さんからも、知識が無いままでは信頼されません。「神尾に聞けば間違いない」、そう思われるような監督になりたいです。

2つ目は「臨機応変な対応力」を身につけることです。設計図に理想的なものが書いてあっても、施工する状況や近隣の環境などによって同じ現場の中でも変化しますし、現場が変わればまったく変わってきます。そういった中で、いかに図面どおりのものを作っていくことができるか、といった対応力を身につけていきたいです。

3

学生時代は、研究室活動・アルバイト・趣味の3つに全力で励んでいました。研究室活動では、岡田教授、田島助手、落合助手にご指導いただきながら、八千代台で行政と地域住民とのワークショップを行いました。卒業研究では北海道まで現地調査に行き、調べたことを文章でまとめ発表する能力を身につけ、卒業研究最優秀発表者賞を受賞することが

できました。アルバイトは7年間、同じ回転ずしチェーンで働き続け継続力を養い、趣味では旅行や飲み会を通して楽しい時間を過ごし、どれも妥協せず、メリハリのある生活を心掛けていました。

4

まち科の強みは幅広い就職先だと思っています。最初は興味のあるなしにかかわらず、いろいろな業界の話を聞いてみると良いと思います。私は就職活動中だけで、建設コンサルタント→不動産→総合建設業と志望が変わりました。最終的に総合建設業に絞ったのは1月でしたが、業界大手に入社することができました。納得のいくまで業界研究はしたほうが良いと思います。

また、自分の強みをよく考えておくべきだと思います。私はアルバイトを7年続けた継続力が大変評価されました。学力だけではなく、人間力も就職活動の大きな強みになると思います。



八千代台 WS 風景

矢澤 竜希

株式会社穴吹工務店 福岡支店 工事課

卒論テーマ 重回帰分析を用いた洪水災害因子が不動産価値に与える影響度の検討(後藤研究室)

好きな「まち」
博多

出身高校
日本大学高等学校



1

社会人1年目は株式会社大京にてマンションの販売を担当し、2年目の4月からはグループ会社である穴吹工務店にてマンション建設の現場監督として働いています。現在行っているのは、施工資料の作成や現場の安全管理などです。

施工資料の作成とは、現場で施工写真を撮りまとめていく作業のことです。この資料は住宅性能評価書を取得する際に必要なのです。安全管理では現場の巡回をします。現場での仕事は他と比べると危険が多いので、危険な箇所を無くすことが重要です。やることは多いですが、日々成長できていると実感しています。

2

自分の武器を作ることが、私の目



自分のデスクにて

標です。なぜなら、周りに頼りにされている方々は、何かしらの武器を持っているからです。例えば、不動産の営業にいた頃の上司は、主に富裕層の接客を任されていました。富裕層にマンションのご案内をする際は高い確率で投資の話題になるのです。その上司は自ら投資マンションの運用をしていたため、投資マンションに精通していて、投資に関する法律をはじめとした知識が他の方々よりも豊富でした。将来自分が何を任されるかは決められていないのですが、どの部署でも目標を達成できるように努力していきたいです。

3

私は学生時代、趣味でやっていたDJイベントの運営に打ち込みました。それまでにイベント主催の経験などは無かったので、さまざまなことに苦労しました。とくに苦労したのが「集客を伸ばす」ことです。回を重ねるごとに運営が改善されているにもかかわらず、集客は伸びませんでした。その原因は、似た内容のイベントが多く開催されていることでした。そこで、イベントでかける曲のジャンルを具体的に告知し、ターゲット層を絞りました。その結果、集客数を初期の3



主催イベントにて

倍以上にすることができました。ここで自ら問題を見つけ解決した経験は、貴重な財産になっていると思います。

4

就活の際には、仕事選びの軸をしっかりと決めるべきだと思います。これから何年も一日の大半を費やす仕事なので、自分の軸とは合わないものを選ばないようにするためです。まずは仕事内容、勤務時間、給料などの中から、何を重要視するかを考えましょう。さらに言うと、仕事内容の場合、どんなことにやりがいを感じるからどんな仕事をしたいなど、理由を考えると良いと思います。こうしたことを考えておくと、面接などでの受け答えも変わってくるでしょうし、その後の社会人生活の満足度も変わってくるのではないのでしょうか。

1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！

金子正輝

京浜急行電鉄株式会社 品川開発推進室

卒論テーマ トランジットツアーを利用した街の活性化に関する研究
—成田山新勝寺表参道地区を検討— (田中賢研究室)

好きな「まち」

蔵前、
代々木八幡

出身高校

福島県立会津
高等学校



優良ベンチャーが集まる場には顔を出して情報収集をしています

1

私は現在「品川開発推進室」という部署で品川駅周辺の不動産開発を担当しています。不動産開発というと「建物の企画をしているんでしょ？」と思われがちですが、私が主に担当しているのは「スマートシティ」と呼ばれる領域です。最近話題のブロックチェーンやAIを使った、「未来の街づくり」の形を模索しています。もちろん、まじめに都市計画や建物計画の話を行政と調整することも多いのですが、未来の街づくりに必要な要素は何なのかを考えるのも大事な仕事です。最先端技術に触れる機会も多いので、日々勉強だなと感じています。

2

一人の人間としての目標ですが、自分が面白いと思っているサービス

で世の中に「楽しい・面白い」を提供したいです。そのために、私自身も今まで以上に仕事をしてみたいと思っています。「こんな街があったら面白い!」「なんか楽しそう!」そう思ってもらえるモノを発信し続け、常に世の中の期待値を超えていきたいです。

3

面白そうだと思うことは何でもやっていました。ヒッチハイクにバックパック、バーテンダーにキー局のアシスタント。アルバイトも少し人とは違うものばかりしていたように思います。中でも印象に残っているのは、就職活動終了後に始めたメガベンチャーの長期インターンです。私は新規メディアの運営を担当していたのですが、リーダーとして自分のチームを持ち、実

際のマネジメントにかかわれたのはとても良い経験でした。当時の仲間とは今でもよく集まりますが、さまざまな業界で活躍している仲間の話は非常に刺激になります。そんな仲間に出会えたことに感謝しています。

4

就職活動は1にも2にも自己分析だと思います。企業分析や業界分析、面接練習などは就職活動上の手段でありテクニックでしかありません。重要なのは、働くという行為の上で自分にとって何が大切なのかということです。お金が大事なのか、プライベートが大切なのか、業務内容が重要なのか、環境が条件なのか。その優先度は人それぞれです。そんな自分を細分化すれば必ずマッチする企業が見つかります。通年採用が一般化する中、情報を制する者がすべてを制すといっても過言ではありません。自分に必要な情報を精査するためにも、自己分析で土台を整えることをオススメします。



長期インターンでの集合写真

尾形穂乃花

西武造園株式会社 東日本統括支店 営業一部設計課

卒論テーマ 自然再生空間における自然遊びの需要について
—野川公園利用者にとっての自然遊び— (押田研究室)

出身高校

茨城県立日立北
高等学校

好きな「まち」

日立市、
代官山



研修期間中の工事測量演習

1

入社後約1年間は、新入社員研修として、請負・維持管理・管理運営・間接事務などさまざまな部門の基礎知識を、主に社内講師から学びました。わからないことは先輩社員に質問できる場が多くあり、有意義な時間を過ごせました。

研修を経て配属された住宅工事課では、分譲住宅の外構植栽工事の現場監督として、お施主様のご要望に添ったものにするために、かつ円滑

私は自然が好きで、みどりに携われる仕事をしたいと思い、建設業の中で唯一、直接みどりをづくり育むことのできるこの会社を志望しました。学生時代は漠然とした夢でしたが、実際に仕事をしていく中で、具体的に何がしたいのかを想像できるようになりました。今後は、実務経験を積むのはもちろんのこと、造園施工管理技士の受験勉強に励み、知識と資格を得ることで造園施工や管理のプロとして一人前になり、いつかみどりいっぱい

のまちづくりに貢献できるようになりたいです。

3

大学の1、2年次は、主にサークル活動を行っていました。音楽ライブの開催



研究室の仲間と共に悩みながら取り組んだ卒業論文

では、部員と協力して必要なものを自分たちで準備し設営を行いました。ライブをより良いものにするため、部員と話し合いながら楽しく活動しました。3、4年次には押田研究室で日々自分のやるべき課題と向き合って研究を進めていました。時には、何から手を付けたら良いかわからず混乱してしまうほど忙しい時もありましたが、最後までやり遂げることができ、達成感がありました。

サークルでも研究室でも、周りの人たちの協力を得て頑張ることができました。そこで出会えた人たちは、今でも悩みを相談できる心強い存在です。

4

就職活動においては研究室の先生が親身になって進路相談に乗ってくださり、目標とする企業を絞ることができました。インターンシップに参加したことも、会社を決める大きな要因になったと感じました。ただ、この一連の流れを作るには、まず自分が進みたい分野を絞らないことには難しかったと思います。私が造園業に進みたいと思ったきっかけは、大学の授業で一番興味を持っていたのが景観学系の自然・みどりに関する科目だったことです。就職セミナーに足を運ぶとともに、先輩や先生方、学部を問わず友人とも情報交換をすることが、進路を定める良い機会になると思います。

鈴木 一功

東京都港湾局 東京港建設事務所埋立整備課

卒論テーマ 実測記録と数値モデルに基づくバランスド扁平アーチ橋の振動特性
把握—埋め戻し地盤の剛性と橋梁の振動特性変化— (仲村研究室)

好きな「まち」

葛飾区柴又

出身高校

東京都立墨田川
高等学校



1

私は、新海面処分場を整備する工事や臨海地域の護岸改修、オリンピック・パラリンピック関係の駐車施設の整備工事等の工事監督をしています。

工事監督とは、工事施工における現場監督とはまったく意味が異なります。公金を支払って実施される工事が、契約内容どおりに品質面でも安全面でも無事に完成することを監督する立場です。施工方法、試験や測定が、定められた基準どおりに施工されているか現場で確認をしたり、試験成績表や工事写真等の書類を確認したり、工期内に竣工できるように受注者へ適切な指示を行います。また、設計図書と現場状況が異なった場合は、変更設計書を作成する設計業務を行うことも少なくありません。

2

私の目標は柔軟力・対応力を身に



理工学部軟式野球部。キャプテンの中村君（2期卒依田研）と一緒に汗を流した
最後の大会では地区予選を勝ち進み東日本大会に出場

つけることです。公務員にはジョブローテーションがあり、計画・設計・工事・維持管理のさまざまな部署に配属されるため、ゼネラリストの能力が求められます。そのため、どんな仕事が無駄に込めてきても柔軟に対応できる力を身につけた

と思っています。時間を作って現場に積極的に行ったり、問題が発生したときは一人で考え込まず先輩や上司に相談をしながらいろいろな視点や角度から物事を考えるようにし、日々勉強し成長しながら働くことを意識して行動しています。

3

学生時代は理工学部軟式野球部の活動に打ち込みました。入部当初は部員も少なく、公式戦ではボロ負けするようなチームでした。私もアルバイトを理由に練習をサボることが多くありましたが、先輩方が引退し私の代がチームの主体となったことで意識を変えました。キャプテンにはチーム全体の指揮に集中してもらい、私は部員一人ひとりの細かい技術指導やサポートを引き受けました。部員がキャプテンに言いにくいこと



夢の島護岸改修工事の床掘工。掘削土砂出来形確認の立会い

も、私が代わって意見をすること、チームの調整役になれたと思います。この経験で得た「チームで活動するために必要な協調性」は、仕事においても役に立っています。

4

就職活動では、自分を信じるのが大事です。就活活動中は友人や周りの進捗がどうしても気になってしまいます。とくに内々定が出始める4年生の4月、5月ごろから公務員試験が始まるため、「筆記試験に落ちたらどうしよう……」と不安になります。そのため、何事も早めに行動することをお勧めします。また、一人で行動するよりも、経験している先輩や先生に何でも聞いたほうが、効率も良く効果的です。「これ以上やることはない!」という自信がつけられれば、内定はもちろん、就職してから結果を出せるようになると思います。

渡辺 大生

静岡県 沼津土木事務所 工事第2課

卒論テーマ 熱海市における宿泊客数増加に関する一考察
—民間企業およびNPO 法人の活動に注目して— (天野研究室)

好きな「まち」
熱海市（出身地）

出身高校
日本大学三島
高等学校



1

私は現在、静岡県沼津土木事務所の工事第2課に所属し、工事の監督員をしています。主な業務としては、管轄地区の道路・河川・砂防の整備・維持工事の発注を行い、竣工までの間に工事現場の施工状況の確認、設計どおりの施工や適切な安全管理が実施されているかの確認を受注業者と協力し進めています。具体的には、道路の舗装補修、側溝設置、標識設置河川浚渫など、さまざまな工事をしています。また、静岡ならではの富士山の登山道のパトロールなど、ちょっと変わった業務もしています。

2

入庁2年目となり、少しずつ仕事にも慣れてはきましたが、まだまだ不慣れな部分が多くあります。1年目は工事現場の経験が少なく、受注

業者さんと現場のやり取りの中で専門的な用語が多く出てきて苦戦することが多々ありました。そうした経験から、円滑に業務をしていくために土木施工管理技士を取得することを考えています。余談ですが、学生時代に何となく施工管理技士の単位を取得しておいて良かったと、心から思いました。また、長期的な目標としては、静岡県庁にて大規模なプロジェクトに携わり、自分に力をつけ、いつか地元である熱海の街を、誰もが住みやすく親しみやすい街に整備していきたいと考えています。

3

私は学生時代にはサークル活動に力を入れていたと思います。サークル活動では、卒業までの4年間を通してたくさんの思い出ができました。サークルでは副部長として大人数の部員を統率するリーダーシップが必要だったので、副部長という経

験をできたことは大変印象に残っています。

サークル活動はただの遊びと考える方も多いと思いますが、サークルでできた仲間は、今後の人生においても有益なアドバイスがもらえ、相談にも乗ってくれます。そうした仲間を見つけられたサークル活動は、大学4年間打ち込んで良かったと考えています。

4

私は、公務員のみならず絞って就職活動をしていました。試験科目には教養、専門の2種類がありましたが、教養は、公務員講座を受講したのと、自前で参考書を購入し勉強していました。専門は、1つの参考書を何度も反復して勉強していました。

また、勉強をするときには一人ではなく、公務員を目指している友達と一緒に勉強をするとモチベーションアップにもつながるし、わからないことがあれば相談もできるし、とても良いと思います。

公務員の採用決定は民間に比べて遅いので、根気強く頑張ってください。

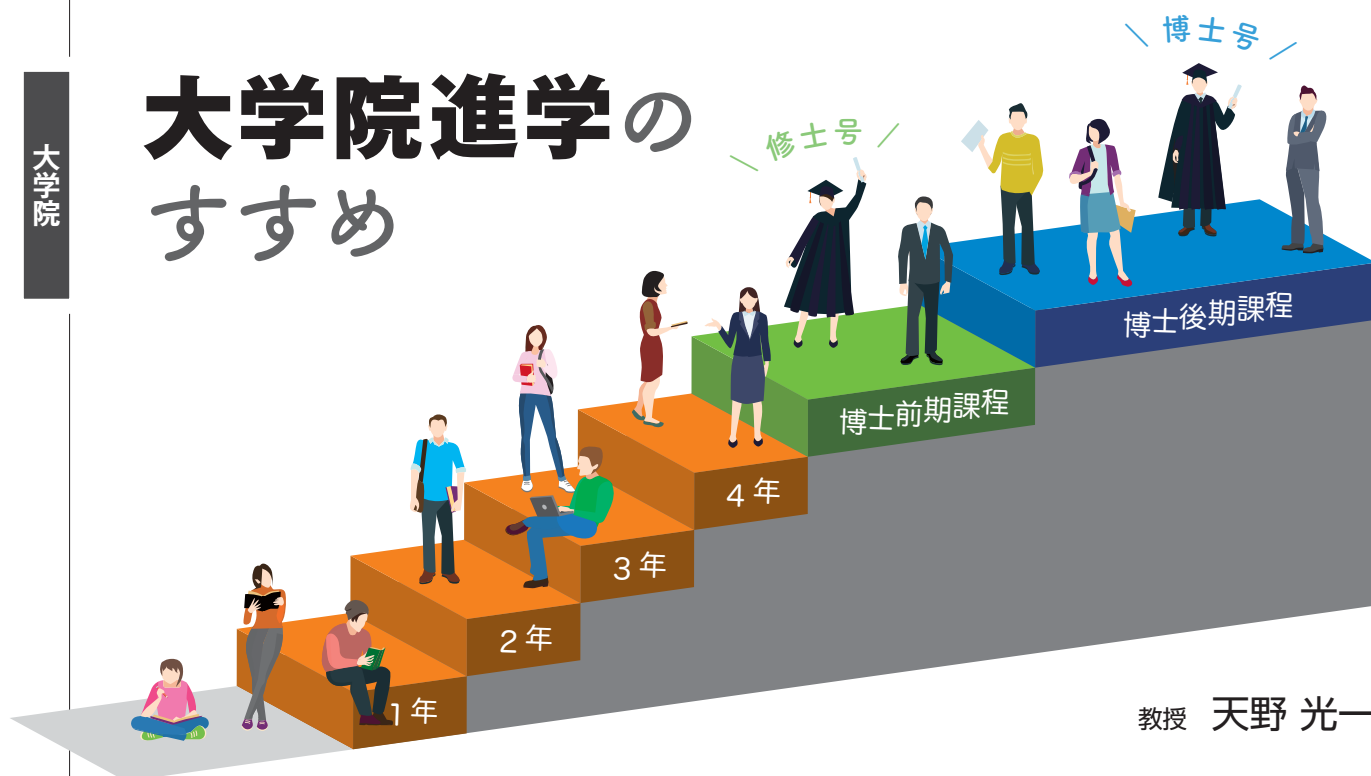


配属後に初めて受け持った現場立会いの様子



業務の一環で参加した富士山の登山道パトロール

大学院進学のおすすめ



教授 天野 光一

大学院には、博士前期課程と博士後期課程がある。後期課程は博士号取得を目指すものであり、研究者の道への第一歩と言って良い。しかし前期課程は、学部比べてより高い専門性を目指すものであり修士号は取得するものの、必ずしも研究者を目指すものではない。学部卒業でももちろん、それなりの専門家として武器となる知識、技術は習得できるわけであり、まちづくり工学科でも学部教育を基本としている。しかしながら、学問が進歩し複雑化している現在、学部だけの教育で十分かと問われれば物足りない感はぬぐえず、前期課程までの進学は特別なことではなく普通のこととなっている。大学にもよるが、国立などでは前期課程への進学が90%を超えているところさえある。とくに「まちづくり」は融合した分野であり広範囲にわたるため、大学院まで進学したほうが、より実践に有効な武器を得られると考えている。

大学院での講義は、学部より専門性の高いものになることはもちろんであり、また他専攻の科目も履修できるため、より広範囲かつ専門性の高い知識を習得できることは言うまでもない。しかし、最も大きな相違は、講義を受ける諸君等学生自身の変化である。大学院に進学するということは、卒業研究を経験しているということである。すなわち「自分で考える」ことを経験し、習得してからの学問となり、一段高いものとなる。以前であれば、高校では習い（倣い）、大学では自ら学ぶと言われていたが、学問分野が進歩し複雑化した今、大学の学部までは習う、すなわち与えられ

たことを習得することが多くを占め、大学院に進学してから自ら選択して学ぶことができると言って良い。前期課程を修了し修士号を取得している学生には社会も期待しており、前期課程修了生の就職は、学部卒業生より有利である。学部生での就職活動の際に出会う企業の中には、「学部、大学院の差はほとんどない」と言う方がおられるが、実は大学院修了のほうが優遇されているのが現状と言って良い。さらに、自分の専門性を活かした職種に就くことも可能となる。

ここまで、大学院の学問、研究、就職などの利点を挙げてきたが、実は大学院生活は楽しい。圧倒的に自由度が高いのである。もちろん前述したように自身の学ぶ態度が変化したことも大きい。前期課程1年の間はとにかく自己裁量性が高く自由で楽しい。学部時代に比べて、単位取得をあまり気にすることもなく、自身の興味の範囲を広げるべく、学問のみならず、例えば、旅行でさまざまな地域、場合によっては外国を訪問することも可能である。また、一見専門とかかわりの少なく見える分野の科目を取ってみたり、書籍を読んでみると、人間としての幅を広げることもできる。もちろん自由になる時間を利用して趣味の世界を広げることも可能だ。筆者の人生では、修士1年が最も幸福な時代のひとつであったし、それなりの人間的成長を感じた時代でもあった。

ぜひ大学院の進学を考えよう。大学院に進学して、自身の人間性を成長させると同時に、専門的知識、技術などを、研ぎ、究めようではないか。

1. スケジュール

みなさんが対象である2021年卒の就活スケジュールについて、日本経済団体連合会（経団連）が「採用選考に関する指針」の廃止を発表しましたが、政府が主導してこれまでのスケジュールを踏襲する方針が示されています。これまで通り、2020年3月1日以降に採用広報活動（会社説明会等）開始、同年6月1日以降に採用選考活動（採用試験）開始となる見通しです。しかし、実際には多くの企業がこれよりも早い日程で実質的な選考を進めていくと予想されます。

公務員1次試験は、例年、国家公務員総合職試験（本年度は4月28日実施）を皮切りに、都道府県庁、政令指定都市、国家公務員一般職、市区町村と順次実施されます（近年は国家公務員総合職試験の前に先行試験を実施する地方自治体があります）。1次試験を通過すると2次試験以降に臨むことになります。来年度の試験日程はまだ公表されていませんが、国家公務員採用情報NAVI（<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>）や公務員試験情報こむいん（<http://comin.tank.jp/>）、各自治体のホームページ等を頻繁に確認しておくことが大切です。なお、国家公務員試験に関しては12月頃に試験スケジュールが発表されます。地方自治体はそれぞれで申込期間や実施日が異なりますので、気付いたら申込期間が終了していたということにならないように注意してください。

本学大学院の入学試験は、例年、6月下旬～7月初旬（推薦・一般第1期）、9月（一般第2期）、3月（一般第3期）に行われます。大学院への進学もぜひ選択肢のひとつとして考えてください。

昨今の就職活動は短期決戦と言われています。現行のスケジュールでは、非常に多くの企業が3月から5月の3カ月間に集中して採用活動を行うことになります。こういった短期決戦

を乗り切るためには、早い時期に始動することが肝心です。まずは今から情報収集を始めてください。知らないことをやりたいとは思えないはず。自分で情報を収集し、自分の可能性や選択肢を広げ、どんなに遅くとも年内には自分がやりたい仕事（業種）、志望企業を決めておきましょう。

2. 情報収集しよう！

就活関連の冊子を活用しよう！

ガイダンスで「CAREER」を配布しました。理工学部オリジナルの就活支援冊子です。有益な情報がコンパクトにまとまっていますので活用してください。後日スマートフォン版が公開予定です。また、書店にはSPIや玉手箱等の筆記試験対策、履歴書・ES（エントリーシート）の書き方、面接対策、公務員試験対策など就活に関する本が多数置いてあります。必要に応じて自分にあったものを選ぶと良いでしょう。

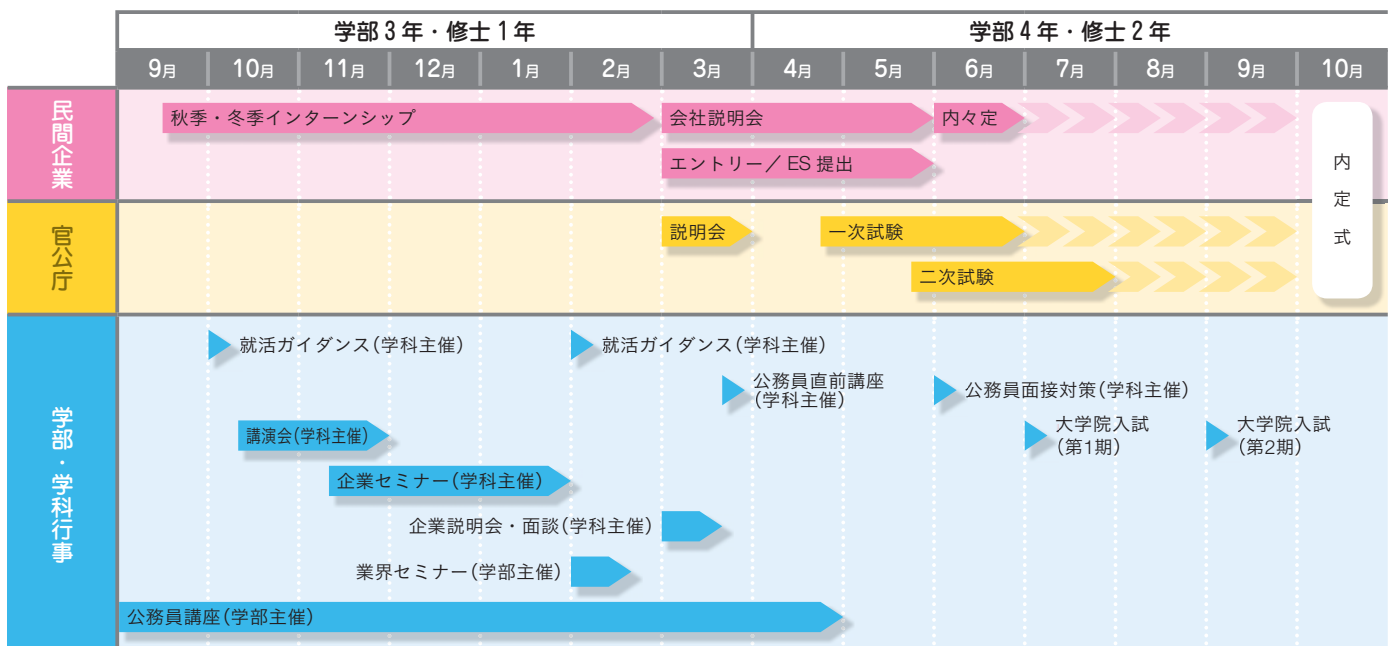
就活支援サイトを活用しよう！

リクナビ、マイナビ、キャリアタスなどの就活支援サイトへの登録を済ませていますか？まだの人はすぐに登録してください。各種の情報を入手できるだけでなく、秋季／冬季インターンシップ・合同セミナー・説明会などへのエントリーや申し込み、書類提出もこれらのサイト経由で行う企業がほとんどです。登録していないと情報が入手できないばかりか、採用試験を受けられないこともあります。

行事（インターンシップ、セミナー、説明会、講演会など）に参加しよう！

夏休み中のインターンシップは就業体験が主目的でしたが、秋以降は就職活動の一環だと思ってください。また、これからは学内外でセミナーや説明会、講演会が開催されます。学内では、学科主催の「就職活動ガイダンス」「企業セミナー」「OB/

キャリア支援・就職活動の概略スケジュール



OG・リクルータによる説明会・面談」「公務員1次試験・面接対策講座」、本部や学部主催の「公務員講座」「業界セミナー」など多数の講座が開催されます。学外では、就活支援サイトや各企業のホームページに開催告知が出ます。このような行事は、実際に働いている方々の話を直接聞いたり、質問をできる貴重な機会です。パンフレットやインターネットのみでは入手できない、みなさんが本当に必要とする希少な情報を得るチャンスです。積極的に参加しましょう。

周りの人に相談しよう！

自分のことですから、自分で考えることが大切です。しかし悩むことも多々あるでしょう。自分の考えを整理したり、自分の意思を確認するためにも、家族、友人、ゼミ・卒研の指導教員、就職指導課キャリアアドバイザーなど身近な人に相談すると良いでしょう。所属研究室・ゼミに関係なく、学科の就職指導担当教員（天野・田中・八藤後・仲村）、公務員指導担当教員（高村・後藤）も、もちろん相談にのります。

まちづくり工学科事務室を活用しよう！

タワー・スコラ12階1210室のまちづくり工学科事務室および掲示板には、学校推薦や学科宛の求人情報などの資料を整理し、みなさんが閲覧したり、自由に持ち帰ることができるようにしてあります。就活支援サイトには掲載されない貴重な情報もあります。また、まちづくり工学科の先輩たちが残してくれた貴重な就活体験記・公務員試験合格体験記も閲覧できます。なお、まち科の就職／公務員メーリングリストでもさまざまな情報を発信していきます。

就職指導課を活用しよう！

就職指導課はタワー・スコラ6階にあります。窓口で申し

出れば公務員試験の過去問題が閲覧できます。また、常駐のキャリアアドバイザーから、就職活動全般についての相談、ES（エントリーシート）や履歴書の添削、面接対策等の指導が受けられます。

3. 資格について

建築士（一級・二級・木造）と国土交通省技術検定（土木施工・建築施工・建設機械施工・造園施工・電気工事・管工事の各施工管理技士）は、指定された科目を単位修得して卒業すれば、受験資格の要件（実務経験除く）を満たすことができます。該当科目で未修得の科目があれば、早めに単位取得することを強く勧めます。これらを採用の必須とする企業も多くありますし、そうでなくても要件を満たしておくことがみなさんの今後にとって有用となります。また、技術士補や宅地建物取引主任士の取得は、就職活動で有利とはなっても、不利となることは決してありません。この秋に受験予定の人は頑張ってください。

4. 授業について

就活に気をとられ過ぎて授業を休んでばかりでは本末転倒です。大学は就職予備校ではありません。みなさんが最優先すべきことは大学での勉強であることを決して忘れずに。

この就職活動を機に、真剣に将来を考え、悩み、自分の道を切り拓いてください。われわれ教員は、できる限りみなさんをサポートしていきたいと思っています。相談などあれば遠慮なくどうぞ。

平成31年度前期 “まち” 行事・イベントカレンダー

3/25 月

卒業式（学位記伝達式）、
卒業パーティー

〈学位記伝達式〉タワー・スコラ S302教室 15:50～17:00

〈卒業パーティー〉1号館カフェテリア 18:00～19:00



学科全体で記念撮影



卒業パーティーの様子



タワー・スコラで初開催となった学位記伝達式

4/2 火 ガイダンス

〈教室主任〉岡田智秀（補佐：後藤 浩）

〈担任〉 1年生 天野光一、高村義晴、西山孝樹
（補佐：荒巻卓見）

2年生 後藤 浩、落合正行

3年生 小木曽 裕、依田光正（補佐：田島洋輔）

4年生 田中 賢、八藤後 猛、押田佳子
（補佐：牟田聡子）

大学院 仲村成貴

〈就職〉 仲村成貴、天野光一、高村義晴、田中 賢、八藤後 猛

〈学務〉 後藤 浩

〈広報〉 西山孝樹

専門科目の学習が本格化する2年前期の授業外に学科独自でオリエンテーションを実施しています。実際にまちに出てその現場を自分の目で見て理解する体験が、まちづくりのさまざまな専門家へ成長していく自覚につながるものと期待しています。



Cコース 海の上からまち巡り「東京新名所・発掘クルーズ」 岡田智秀・田島洋輔



Fコース 参道の魅力～中山法華経寺参道・柴又参道・浅草寺参道の三つの参道～ 高村義晴



Iコース 秋葉原の歴史と文化探訪 青果市場から電気街、そして世界へ～文化の発信へ 八藤後 猛



Aコース 五感で楽しむ初夏の神楽坂まち歩き～神楽坂界隈に積層する新旧まちづくりプロジェクトを訪ねる～ 阿部貴弘



Dコース お洒落な原宿・表参道の歴史と今～都市計画とランドスケープと食の視点で探訪～ 小木曽 裕



Gコース 『江戸東京たてもの園』からまちなみを考える 田中 賢



Jコース 世界標準のユニバーサルデザイン設備 依田光正

4/5 金 新入生歓迎式（船橋キャンパス）



インセンティブ後の新入生集合写真（4/22）

5/11 土 オリエンテーション



Bコース 東京の近代土木遺産を訪ねる 天野光一



Eコース まちづくりのための治水・利水施設「ダム」の大きさ・デザインを感じる 後藤 浩



Hコース 小江戸川越まちあるき「名所＋α巡り」 仲村成貴



Kコース 350年の歴史観光ルート・鎌倉～江の島を巡る 押田佳子



Lコース 横浜みなとみらい地区周辺散策
山崎 晋



Mコース 谷根千エリアでリノベーション
建築巡り
落合正行



Nコース 時代を超え、国を超えて多様な
文化が交わる成田をゆく
西山孝樹

6/9 日 付属高校生のためのオープン カレッジ（駿河台キャンパス）

まち科ブース来場者数：312名（平成30年度：269名）

理工学部総来場者数：964名（平成30年度：676名）



7/14 日 駿河台入試フォーラム （駿河台キャンパス）

まち科ブース来場者数：402名（平成30年度：329名）

理工学部総来場者数：2,234名（平成30年度：1,874名）



6/29 土 後援会父母面談会 （船橋キャンパス）

7/4 木 理工学部校友会まちづくり部会 「さくらまち会」特別講演会 （駿河台キャンパス）

講演者：森 紗耶氏（部会長）、石松 玲氏（副部会長）、
岸田 樹氏（常務理事）

タワー・スコラ S301教室

7/27 土 理工学研究科博士前期課程
まちづくり工学専攻
平成31(2019)年度第1回修士論文
審査会(駿河台キャンパス)

タワー・スコラ S202教室



8/3 土 4 日 オープンキャンパス
(船橋キャンパス)

まち科ブース来場者数：1日目509名(平成30年度：541名)、
2日目593名(平成30年度：401名)
理工学部総来場者数：1日目3,349名(平成30年度：3,075名)、
2日目3,986名(平成30年度：2,940名)



8/21 水 台湾南開科技大学の皆さんが
来校

八藤後教授が台湾南開科技大学の皆さんへ向けて講演を実施しました。



8/24 土 後援会地方父母懇談会

新潟会場(後藤 浩) 1組
大阪会場(高村義晴) 1組
愛知会場(落合正行) 2組

9/25 水 9月卒業式

まち科卒業生：2名

校友会役員(父母役員)

1年生 三浦邦明 2年生 渡邊和樹 3年生 菊池秀夫
4年生 榎本雅夫 大学院 樋口伊織

教員人事

■昇格

山崎晋助教が「准教授」へ昇格(4/1)
落合正行助手が「助教」へ昇格(4/1)

昇格



昇格



学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

〔テレビ番組に出演〕

■ 准教授 押田佳子

日本テレビ「所さんの目がテン！」（第1482回「庭園の科学」）

放 送 日：2019年6月30日

〔ラジオ番組に出演〕

■ 助教 落合正行

J-WAVE「SUNRISE FUNRISE」（「FUTURE DESIGNER」コーナー）

放 送 日：2019年3月24日

〔講演〕

■ 教授 岡田智秀

八千代市主催「八千代市の農業の未来を考えるシンポジウム」

開 催 日：2019年3月10日

場 所：八千代市役所

荒川区あらかわ景観まちづくり塾主催「あらかわ防災景観に関する地域資源と特徴」

開 催 日：2019年3月23日

場 所：サンパール荒川

入新井図書館公開講座「海が育んだ大森の歴史～そしてこれから」

開 催 日：2019年5月12日

場 所：大田区立入新井図書館

■ 教授 阿部貴弘

日本大学理工学部図書館公開講座「水都・江戸は、こうして創られた都市デザインの謎を解く」

開 催 日：2019年6月7日

場 所：タワー・スコラ S101教室およびロビー

■ 助教 落合正行

二子玉川 蔦屋家電 BOOK『アーキテクトプラス“設計周辺”を巻き込む』発売記念トークイベント（古澤大輔（理工学部建築学科助教）他5名）

開 催 日：2019年6月17日

場 所：二子玉川 蔦屋家電 2階ダイニング

■ 教授 阿部貴弘

東京都建設局土木技術講習会「江戸に学ぶ水の都の楽しみ方～東京2020のその先へ～」

開 催 日：2019年6月18日

場 所：東京都庁

■ 教授 岡田智秀

八千代市新川ウォーターフロント共同事業体主催「新川の川まちづくりの展望」

開 催 日：2019年6月24日

場 所：八千代市農業交流センター

新河岸川広域景観連絡協議会主催「自然を生かした河川の景観づくりについて」

開 催 日：2019年9月7日

場 所：朝霞リサイクルプラザ

編集後記

ここ最近、まちづくり工学科の卒業生が、各研究室が並ぶタワー・スコラ12階へ立ち寄ってくれ、頼もしい元気な姿を見せてくれることが増えました。懐かしい学生時代の話をしている時、皆が口を揃えて言うことは「自分自身のこと。大学での学修はもちろん、精一杯やり遂げることが一番大事」。そうは言うものの、嬉しい、楽しいことばかりではなく、悩んだり、苦しんだりすることが常々。そんな時、先輩たちはどうしていたのか、そのヒントが特集記事に散りばめられています。ぜひ一度、じっくり読んでみてください。そして、来年の特集では誰が誌面を飾ってくれるのか、今から楽しみです。

（西山孝樹）

〔書籍に掲載〕

■ 教授 岡田智秀

記事「水辺の成り立ちと“おしゃれ”の舞台としての水辺空間整備」「戸田市のおしゃれを具現化する水辺活用術」

掲 載 書：『住民がつくる「おしゃれなまち」—近郊都市におけるシビックプライドの醸成—』（公益財団法人日本都市センター）

発行年月日：2019年4月1日

■ 助教 落合正行

インタビュー記事「研究室でリサーチやコンサルティングを担い、良い設計と件をつくっていく」

掲 載 書：『アーキテクトプラス“設計周辺”を巻き込む』（ユウブックス）

監 修：古澤大輔（リライトD）、岡部修三（upsetters architects）、山道拓人（ツバメアーキテクト）

発行年月日：2019年5月24日

〔雑誌等に掲載〕

■ 助教 落合正行

記事「国内トイレ×キッチン・サーベイ 8 街のスタンド——都市住宅を住み開く」

掲 載 誌：LIXIL ビジネス情報（WEB）

掲載年月日：2019年3月27日

■ 教授 阿部貴弘

記事「来島海峡を見守る砲台の島～陸軍芸予要塞小島砲台跡～」

掲 載 誌：『文化愛媛』82号（愛媛県文化振興財団）

発行年月日：2019年3月

■ 教授 小木曽 裕 他

特集・総括「まちづくりにおける大都市の空地の実態と活用—快適な都市を目指す空地の計画・設計とマネジメント—」

掲 載 誌：『環境情報科学』48巻2号

発行年月日：2019年7月5日

〔新聞に掲載〕

■ 押田研究室（参加者：3年生 江口純平、福山健太、向田朋世、真野晏州力）、日本大学生物資源科学部くらしの生物学科小谷研究室有志

記事「自主創造プロジェクト：駅ナカから地域の想いを発信！」

掲 載 紙：信濃毎日新聞

発行年月日：2019年9月11日

〔受賞〕

■ 助教 西山孝樹

第39回土木学会土木史研究発表会「優秀講演賞」（一般）

対 象：『徳川実紀』にみる江戸時代前中期の道路行政制度—「橋梁」に関する事項に着目して—

受賞年月日：2019年6月23日